



フェリーさんふらわあ

## 仲良し親娘の大分マイカー満喫4日間女子旅

【2017年9月 兵庫県在住 T様】

(旅のコメント)

旅行好きの主人に誘われた北海道へのフェリーマイカー旅行をきっかけに、船旅の魅力にどっぷりはまった私。以来、夫婦二人で何度も北海道や九州にフェリーにマイカーを乗せてドライブ旅行をしています。今回は女子旅モニター募集ということで、母を誘い、親娘でのさんふらわあ大分マイカー旅行を計画！マイカーで大分を走りまわって、ひたすら観光づくし、食べづくし、飲みづくしの旅行です☆

(フェリーさんふらわあの旅1日目)

自宅からの最寄りの出発港は神戸・六甲アイランドのフェリーの乗り場ですが、この日はあいにく、神戸発便が運休で出港がなかったので、かわりに大阪南港から出ている別府行き航路を利用することにしました。

朝からあいにくの雨。家の片付けと荷造りをすませ、スーツケースをトランクに積み込んで大阪南港へ向けて16時前に自宅を出発！

雨の中、阪神高速湾岸線を東に走り大阪南港へ。南港北インターを下りてから南港の広さに少々迷子になりつつ、、、ATCのフェリー乗り場へ辿りつくくと、今度はフェリー乗り場の広さに迷いました。誘導員の方に場所を訊き、なんとか受付に辿りつき乗船手続きを済ませました。

その後は、乗船時間まで30分ほど時間があつたので、私はATC内のお店を見てまわり、母は待合室前のコンビニで購入した缶ビールを飲んで乗船時間を待ちました。

そして、いよいよ「さんふらわあこぼると」に乗船。

実は今回の旅の最初の目的は、「さんふらわあこぼると」に乗ることでした。というのも、さんふらわあの大分便と志布志便は利用したことがあったのですが、別府航路には乗ったことがなく、今回のモニター旅が別府便初乗船だったからです。となると、ここは船の様子をしっかりと見学しなければ、という使命感がわきます。

先に徒歩乗船していた母が大浴場を使っている間、私は揚々と船内を見学していました。



船に泊まろう。





## フェリーさんふらわあ

こぼるとの船内はとても綺麗で、フロント、レストラン、売店、大浴場が船の中心に集まっています。便利でした。

エントランスにある階段を使い、5階デッキへのぼれば広々としたラウンジがあり、ラウンジの奥にはコンセント付きのカウンターも取り付けてあって、一人旅でも快適に過ごせるスペースになっていました。

居心地の良さそうなラウンジと、船内設備の使いやすさ、こじんまりとした船の作りもあわせて、さんふらわあこぼるとはお気に入りのフェリーになりました。

夕食は、船室で母の作ったお弁当。  
5階のラウンジでお弁当をひろげても良かったのですが、せっかくのレディースルームですし、部屋でくつろぎながらお酒を飲みつつ、賑やかに楽しく食事をしました。

夕食後しばらくして、船が明石海峡大橋の下をくぐりましたが、ちょうど真下を通過するタイミングで雨がぱらついたため、雨を避けながら眺めました。普段、車で走る大橋を下から仰ぎ見るのは、船ならではの楽しみです。

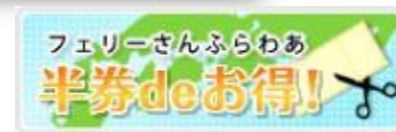


### (フェリーさんふらわあの旅2日目)

夜ぐっすりと眠れたので、2日目の朝は気持ちよく目が覚めました。天気もすっきりとした快晴で、雨上がりのさわやかな陽射しを受けながらフェリーのタラップを車で下って九州に上陸！

別府の街へ入りました。  
この日の朝食は、**さんふらわあの半券deお得!**を使って別府の宿で頂きました。さんふらわあの半券を宿にみせたら（宿によっては予約が必要ですが）、温泉と朝食のセットが1000円になる、という大変お得な割引があり、リーズナブルな価格で朝食が味わえる上、お宿の内湯も使えるので、この半券割をもう何軒かで使わせてもらっています。

そして今回、朝食の宿に選んだのはホテル別府パストラルさん。



船に泊まろう。





フェリーさんふらわあ

朝食後は、長湯温泉へ。くねくねとした細い山道を通り抜けて約1時間、向かった先は「ラムネ温泉館」。

ラムネ温泉館の外湯は強めの炭酸泉で、32℃のぬるいお湯にじっと浸かっていると、腕や腿にぷくぷくと細かな炭酸の泡がくっついてきます。

数分もすれば、全身に炭酸の泡がまとわりつき、大きな泡がくっついた腕を撫でれば、泡が一斉に弾けて、肌はつるつるに。泉質は最高、入り心地も最高！の温泉です。

実は、私がラムネ温泉へ来るのは、今回が2回目。

ちょうど一年前の秋に主人と二人で訪れたのですが、その時に経験した、あの泡のくっついてくるお湯が忘れられなくて、母を連れてきました。

母も、この不思議な温泉に「きもちいい！」「おもしろい！」と感激していました。



(ラムネ温泉館)  
建物がモダンでお洒落

別府、長湯と2カ所の温泉をまわって身体が満足したので、次は九州の自然を見学！

いちど竹田に出て、竹田市の観光協会の方に走りやすい道を訊ね(←これ重要です)、まずは原尻の滝へ。

滝といえば、山間の崖の上から流れ落ちているものというイメージなのですが、原尻の滝は平野にある滝。

田園風景の中に突然現れる不思議な滝でした。

滝の正面には滝見用の釣り橋が架かっており、

橋板の隙間から見える谷の高さと橋の揺れにおそろおそろ、そろそろと橋の中央まで進んでいき、

滝を真正面に眺めました。



原尻の滝を見学した後は、滝の傍にある道の駅に入って昼食にしました。

注文した田舎豆腐定食に大分名物のだんご汁がついており、

油揚げ、ゴボウ、ニンジン、サツマイモなどなど具がみっしり。

とても素朴な味で、お腹もいっぱいになりました。



だんご汁は前から一度たべてみたいなあ、と思っていたので嬉しかったです。

船に泊まろう。







フェリーさんふらわあ

昼食後は、道の駅の案内看板で見つけた宮迫石仏に立ち寄ってから、沈墮の滝へ。

こちらは山間にある滝で、落差20m、幅が100メートルという大瀑布。滝までの遊歩道の両脇には明治の頃に建てられた水力発電所が廃墟になって残っており、アーチ状のレンガ窓に緑の蔦が絡まっている様子はラピュタみたいでした。

2つの滝を巡った後は、風連鍾乳洞へ。  
ここもさんふらわあの半券deお得！で入館料が100円引きに。

受付で半券を見せ料金を払うと施設の方から、天井を照らすのにどうぞ、と大きめの懐中電灯を手渡されました。

懐中電灯を片手に山道を数分ほど進み、鍾乳洞の入り口へ。中に入ると、さっそくひんやりとした空気が汗ばんだ肌を包みました。洞内は照明があるとはいえ薄暗く、足元を滑らないように気をつけながら奥まで進むと、最奥部には竜宮城と呼ばれる大きなホールがありました。

ここがまさに「**圧巻**」の一言でした。

高い天井からは無数のつらら石が細長く伸び、無数の石柱や石筍が林立していました。

中でもひととき目立つ石筍がひとつ、それこそ幾つもの泡が重なるような形で大きくせりあがる様は異形でした。ホールの奥に作られた階段から洞内を眺め下ろすと、眼下の光景に「すごい！」と思わず感嘆の声が。

私自身、とくに洞窟好きというわけではないのですが、こちらの鍾乳洞は見応え抜群でした。

と、当初の予定では、ここで2日目の観光は終わり、この後は佐伯市のホテルへと向かう予定だったのですが、時刻を見ればチェックインまで1時間程度の余裕があったので、臼杵石仏もまわることになりました。



船に泊まろう。





## フェリーさんふらわあ

風連鍾乳洞の受付の方に道を聞くと、鍾乳洞の前の太い道をまっすぐ30分くらい走っていけば道沿いにある、と親切に教えてもらえたので、アドバイスどおりの道を走り臼杵へ。

臼杵石仏へ行くのは今回が初めてで、てっきり大きな仏様が一体鎮座されているだけだと思っていたのですが、臼杵石仏は身の丈ほどの仏様が集まった石仏群でした。

不勉強が恥ずかしい。

臼杵の石仏様はどちらも柔らかな表情をされていて、仏像とは違う不思議な落ち着きを感じました。

こうして2日目の観光は終了。

佐伯のホテルに到着後は、地元の居酒屋さんへと繰り出しました。

まず一軒目は佐伯港近くの居酒屋さんで新鮮な魚を頂きました。やはり目の前が豊後水道なだけあって、お刺身はもちろんのこと、一緒に頼んだすりみ揚げも美味しかったです。すりみ揚げは魚のすり身を揚げたものなのですが、食感もちもち、味はあっさり淡泊で、くせのない味に麦焼酎が良く合いました。

そして二軒目は焼き鳥のお店へ。こちらでは赤鶏のタタキを頼みましたが、この赤鶏がまさに絶品……！肉は軟らかく、旨味は十分、焼き加減もちょうどよくて、こんどは芋焼酎がすすむすすむ……

普段から焼酎はよく飲みますが、やはり九州のお店は置いている焼酎の数も種類もちがいました。

しかもどれも安い……！

赤鶏を前に、メニューにならぶシリア焼酎をもう一杯！と攻めたかったのですが、明日のことを考えて、早めに宿に戻りました。ああ無念……



船に泊まろう。







## フェリーさんふらわあ

(フェリーさんふらわあの旅3日目)

前夜の焼酎を控えめにしたのが功を奏したのか、3日目の朝もスッキリと目覚めました。

天気も快晴で、文句なしのドライブ日和。3日目は国東半島をドライブしました。

佐伯から国東半島へ。途中、別府湾SAで休憩を挟んで約1時間で国東半島へと到着！

ちょうどこの辺りで走行距離が400キロを越えたので、大分空港近くのガソリンスタンドで給油。この時、最初の観光スポットに決めていた両子寺への道を店員さんに訊ねました。

事前に地図を見て決めたルートでは、いったん国見まで国東半島を半周してから両子寺へ南下するつもりだったのですが、店員さん曰く「その道はかなり狭い」とのこと。九州を走る際、ナビよりも地図よりも大切なのは地元の方の証言だというのは、とっくに身に染みていました。

「それよりもこっちのほうがいいですよ」と、店員さんからは、別の行きやすい道を教えてもらったので、その道を使って両子寺へ行くことにしました。

両子寺は国東半島のほぼ中央に建つ山寺で、開山は平安時代と古く、山門には石の仁王像が構える立派なお寺でした。

神仏習合で、境内にある石造りの鳥居の奥にある苔むした石段をのぼっていくと、鬱蒼とした木々に隠れるようにして本殿がありました。

こちらの本殿は山の中腹、崖を削ってできた窪みにおさまるように建てられていて、

御堂から崖下をみたら想像以上の急勾配で驚きました。

本殿の裏には小さな洞窟があり不老長寿の霊水が湧いていたので、お参りをしてから一口頂きました。霊水以外にも、境内にいる狛犬や、山門の仁王像のふくらはぎを撫でると足腰が強くなるらしく、母と二人でしっかりと撫でてきました



(両子寺の石造りの仁王様)



(お寺の中にある鳥居と狛犬)

船に泊まろう。





## フェリーさんふらわあ

両子寺の次は富貴寺へ。

両子寺の門を出るときに、お寺の方から「富貴寺はお蕎麦が有名だよ」と教えてもらったので、蕎麦好きの母の希望もあって、昼食は富貴寺でお蕎麦を頂くことにしました。

ここで大発見がありました！ お店の方から蕎麦の薬味に柚子胡椒を勧められたのですが、

これがめちゃくちゃお蕎麦に合いました……！

胡椒のぴりっとした辛さと、柚子のほんのりとした香りに、お蕎麦がぐぐっとひきたつ感じです。

これはいける！と、新しい発見に、母と二人で感動しきりです。

もちろんお蕎麦自体の味も良くて、とても思い出に残る昼食になりました。

昼食後は富貴寺に参拝。

国東半島の寺院には、石造りの仏像が多く残っているらしいのですが、こちらの山門の仁王様も石で作られたものでした。

前述の両子寺のものよりもやや小振りで、ずんぐりとした体型の仁王様の守る山門をくぐると、その先に、国宝に指定されている富貴寺大堂がありました。

深い緑の中に佇む御堂の四方には、古びた石塔や祠、朽ちかけの石の卒塔婆が囲み、回り縁から堂内へ入ると中にはなんともいえない静けさと重みが。

この建物のもつ重みというのか、千年以上の時間を経た建物から滲み出る雰囲気を感じました。

境内には黒猫がおり、石段の上の見晴らしの良いところでゴロンと気持ちよさそうにお昼寝。大きな身体の立派な猫でしたが、黒い肉球は柔らかかったです。



船に泊まろう。







フェリーさんふらわあ

寺院を2つまわったので次は宇佐神宮へ。

さすが八幡宮の総本宮だけあって境内はとても広く、末社も数多くありましたが、その全てをまわりきることは時間的に無理だったので、上宮と下宮だけお参りしました。

上宮の朱塗りの本殿が、昼下がりの空と、大楠の緑に映えてとても美しかったです。宇佐神宮では、旅の大切な相棒でもあるマイカー用に交通安全のお守りを購入！

参拝後は、宇佐神宮の傍にある宇佐からあげの専門店からあげを食べました。にんにく醤油で下味を付けられた揚げたてのからあげは、とてもジューシーで美味しかったです。

と、宇佐神宮で寺院巡りは終了し、宇佐のからあげを頬張った後は、安心院へと向かいました。

目指すは安心院葡萄酒工房です。こちらは下町のナポレオン「いいちこ」で有名な三和酒類さんのワイナリーで、ワイン工房の見学とワインの試飲が出来る、というのを予め調査済み☆

ただ、有名な焼酎メーカーさんのワイナリーだし、こじんまりとした規模のワイナリーなんだろうなあ、焼酎も並んでるんだろうなあ、なんて勝手に想像していたのですが、

実際に行ってみると、ずいぶん想像と違って本気でビックリ！！

まず試飲の数が多かったです。置いているのもワインとブランデーのみで、赤、白、スパークリングなど20種類くらいが試飲に出ていました。

安心院葡萄酒工房でワインの試飲と買い物を済ませ、工房を出たのは15時30分でした。



船に泊まろう。







フェリーさんふらわあ

さんふらわあの大分港の本日の出港時間は19時30分。

まだ時間の余裕がある!!! そう思ったので別府で温泉へ再び!!!

前日の別府到着時も朝から二湯まわったので、発着前の夕方目指すは二湯はしごです。  
別府八湯とよばれるほどに豊富な湯量をもつ別府温泉なら、今からはしご湯もできるはず……!  
と、意気込んでまず向かったのは明礬温泉・湯の里でした。

明礬温泉は、たまごの腐った、というか硫黄の匂いの漂う青白色の濁り湯で、ぬるぬるのお湯が特徴の温泉です。

目にお湯が入ると目が痛くなるので顔を洗うときは注意が必要なくらいのお湯ですが、そのぶん効果も抜群。  
湯の花の浮くぬるぬるのお湯につかると、みるまに身体がつるつるになりました。

明礬温泉でしっとりした後は、鉄輪温泉にある夢たまで筥へ。  
檜造りの内湯で身体をほぐし、露天風呂にあった箱蒸し風呂や打たせ湯などを楽しみながら、  
こちらでしっかりと汗を洗い流しおとしました。  
さきほどの明礬温泉・湯の里と、鉄輪温泉の夢たまで筥は、両施設ともにさんふらわあの半券deお得! が使え、お得でした。

少々慌ただしくはありましたが、なんとか別府温泉2湯はしごを済ませ、  
身も心もさっぱりした後は、別府市内のスーパーで夕飯を調達し、  
「さんふらわあばーる」の待つ大分港へと向かいました。

乗船後は、船室でくつろぎながら、  
食事とお待ちかねの安心院の白ワインを開封しました。

あれだけ我慢して、飲むのを待ち焦がれた白ワインは  
とても美味しかったです。  
夕食後は、のんびりとテレビを見ながら  
レディースルームのイオンスチーマーを試したりしました。



船に泊まろう。





## フェリーさんふらわあ

(フェリーさんふらわあの旅4日目)

最終日の朝は早く、5時30分に起床！さんふらわあから日の出を見るためです。

先に起床していた母に促され、半分寝ぼけたまま、7階のデッキに出ると、、、すでに空は明らんでいました。空の低いところはほの赤く染まり、高いところは薄青のままに澄み渡り白い月がぼっかりと浮かんでいました。

舳先の方向、ちょうど日の出の向きに曇が出ていたというのもあって、太陽の出る東の空よりも、反対の西の空ばかり見ていました。黎明の空と、オレンジ色の商船三井のファンネルマークの組み合わせがとても素敵だったので。船上で日の出を見た後は、船内のレストランで朝食をとりました。

ちょうど朝食の時間に明石海峡大橋の下をくぐったのですが、多くの漁船が橋脚のまわりで漁をしていて、あの狭い海峡に多くの漁船がひしめいたうえ大型のフェリーも通って、よく衝突しないなあ、と思いました。食後は、部屋へ戻って下船の準備をしました。船旅が名残惜しくもありましたが、さんふらわあは無事に神戸港へ帰着。私たちも下船し、家路につきました。

### ☆今回の行程☆

1日目 大阪南港へ！さんふらわあ乗船 船旅満喫☆

2日目 別府温泉 長湯温泉 原尻の滝 宮迫石仏 沈墮の滝 風連鍾乳洞 臼杵石仏 佐伯市内泊

3日目 国東半島 両子寺 富貴寺 宇佐神宮 安心院ワイナリー 別府明礬温泉 夢たまたま筥 大分港

4日目 神戸港到着後、そのまま帰路へ。

☆今回の行程でおすすめ「船に泊まろう マイカープラン」。片道最安値24,800円～楽しめる船旅です。



船に泊まろう。

